

# 平成 30 年度 事業報告



## 玉野総合医療専門学校

21世紀の医療・保健・福祉のスペシャリストを育成します。



1. 教育面については、国家試験の全員合格を目標に全学を挙げて取り組みました。

また同時に、少子・超高齢社会での確に対応できる人材の養成に取り組みました。

2. 研究面については、教員と学生の研究・症例研究活動の充実を図り、教員のみならず学生における現状の深層理解と改善能力のスキルアップを図りました。

3. 臨床実習（臨地実習）を基軸として、現在の医療・福祉現場の理解を深め、地域貢献の充実を含む現状の改善・改革を推し進めました。

4. 産学官連携を目指し、玉野市との連携を充実させるとともに、加計学園の一員として産学官連携活動へも積極的に参画しました。

玉野総合医療専門学校 校長 平井 義一

### 教学の充実

#### ■カリキュラム

保健・医療・福祉のスペシャリストの養成校として、保健看護学科、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科において、それぞれの学科で目指す国家資格に係る分野の基礎から専門基礎、専門へと体系的なカリキュラムを構築し教育を行いました。

また、理学療法学教育、作業療法学教育の養成カリキュラム改正（2020年4月入学生から適用）を受けて、カリキュラムの見直しを開始しました。

#### ■教育改革

少子高齢社会が求める医療・福祉のニーズに合った教育を迫ると同時に、国家試験の出題傾向を検証し実情に合致した教育を行いました。

#### ■FD 推進

多様な学生への対応および変遷する国家試験を見据えた教育力、指導力強化に取り組みました。

具体的には、教員自身で行う自己点検評価、学生による授業アンケートの実施（前期・後期）、校長、副校長などによる授業観察を実施しました。

また、大学とは異なり、研究を主たる目的としない専門学校ではありますが、自己研鑽できるよう個人研究費を配分し、学会、研修会などへの参加を促進し、学会参加件数 12 件、論文発表 24 件、研修会参加 68 件の実績となりました。

## ■教員定員

法令を遵守し、最新の医療・福祉に精通した教員の確保に努めました。

## 研究の推進

### ■研究活動の推進

#### (1) 教員の研究活動を推進

全ての教員に対して個人研究費を付与、大学院への進学許可およびイベント実施日の勤務体制配慮、施設設備利用の許可等、研究活動を行うための環境を整えるなど可能な限り支援を行いました。

#### (2) 学生の研究能力の開発を推進

保健看護学科では、看護研究の意義と目的を理解し、研究の進め方と方法の基礎的知識を得ることをねらいに講義・演習を行いました。特に、3年次・4年次の看護学実習を通して、自らの体験を振り返り、客観的に見つめ直し、患者の反応の意味や看護の価値、よりよい援助の在り方、看護の現象を考えていけるよう、ケースレポートの作成に段階的に取り組ませ、報告会で共有を行いました。理学療法学科、作業療法学科では3年次後期からグループ研究を開始し、4年次後期に発表会を行いました。また、介護福祉学科では、2年次前期と後期にそれぞれ別テーマで事例研究を行い個々が発表する機会を設けました。

### ■学内紀要への積極的投稿

研究を奨励し、研究成果を発信する機会を設けるため昨年に引き続き紀要の作成を行いました。昨年発刊された第12巻では、7件の研究発表が寄稿されましたが、第13巻でも、4件の研究が寄稿されました。

## 学生支援

### ■修学支援

(1) 新入生の基礎学力を向上させるためのリメディアル教育を充実しました。

新入生の学力を把握するために前期の授業が始まる前に基礎学力試験を行い、試験結果より、各学科で必要となる基礎学力と学生個々の学力差を確認し、個々の学力に応じたプログラムによるきめ細かなリメディアル教育を実施しました。

(2) 学生個々の学力に合った指導を充実しました。

授業の前後、放課後および空きコマを利用し、学生への個別相談や個別指導を行いました。特に小テストなどで理解度を確認し、講義内容への理解が不十分な学生には教員が積極的にアプローチし学生の理解度を高めるための指導を行いました。

### ■障がい学生等への支援

障がいのある学生の受け入れに関する対応、相談、及び支援体制の充実を行いました。

### ■生活支援

(1) チューター、コーディネーター制の導入によるサポート体制の充実を行いました。

保健看護学科では、1学年に2名のコーディネーターを配置し、実習指導で手薄になった際にもサポートができる体制を整えました。

また、介護福祉学科、理学療法学科および作業療法学科では担任制を導入し、きめ細かなサポートを実施しました。

(2) 外部からスクールカウンセラー並びに診療所勤務の現役の臨床心理士を招き、定期的にカウンセリングを行いました。

カウンセリングは事前予約制とし、教室から離れた場所にカウンセリングルームを設けるなど学生のプライバシーに配慮し、学生が相談しやすい環境の整備を行いました。

(3) 無料のスクールバスを岡山駅西口～本校間、倉敷駅～茶屋町駅～本校間で運行し、遠方から通学する学生のサポートを継続しました。

(4) 部活動を奨励するとともに活動を支援しました。軟式野球、サッカーを始め多くの運動系と、ハ

ンドクラフト、手話などの文科系の部が活動しています。平成30年度岡山県専門学校交流スポーツ大会は西日本豪雨災害などの影響でほとんどの競技が中止となってしまいましたが、テニスと卓球は、昨年に引き続き岡山県内の予選を勝ち抜き、全国大会に出場しました。部活動が安全かつ活発に行えるよう教職員が顧問に就任し、練習する曜日を定め、活動しています。

顧問が不在の時などでも活動ができるよう代理顧問が活動を見守る体制整備並びに学生の意向を尊重し、大会直前の追加練習に付き合うなどの人的支援を行っています。また、全国大会に出場が決まった際には、教職員を対象にした支援金の募集活動や同窓会と連携した遠征費の一部支援を行っています。

#### ■就職支援

- (1) 求人情報を素早く開示し、学生の就職活動を支援しています。寄せられた求人は、内容を確認出来次第、学生がいつでも閲覧できるよう開示を行いました。
- (2) 各学科で就職担当者を決め、学生の希望、学習状況などを鑑み、個別に就職相談に応えました。
- (3) 全学科において1年次から4年次へと段階を踏んだガイダンスを実施し、入学後から就職に対する意識付けを行いました。

#### ■その他

- (1) 学生指導主任者を選任し、責任を持って学生指導を行っています。また、各学科の学生指導主任者と事務局で定期的に会議を開き、学生指導に関する協議を行いました。
- (2) 学生総合補償の保険料を学校が負担し全学生が、安心して学内での学習、学外での実習並びに部活動が行える支援を行いました。
- (3) 学科・学年ごとに最適な時期に教育・進路懇談会を実施し、学生の学校生活、家庭での状況などの情報を共有し、学生の変化に即応できるよう保護者と教員が連携した学生サポートを行いました。

## 社会連携・社会貢献

#### ■行政機関との協定

玉野市と連携協力し、市民向けのアカデミックな公開講座をはじめ、生涯教育に関する出張講義、地元の中学生、高校生を対象とした講義や模擬授業を積極的に実施しました。また、たまの・港フェスティバルや玉野まつり、キッズビジネスタウン玉野など地域のイベントへも積極的に参加し、地域になくしてはならない存在として貢献しました。

#### ■公開講座

保健・医療・福祉に関する最新情報を提供し、市民の暮らしをサポートします。今年度は、『老後に安心を』をテーマに、10月6日を皮切りに、「肩こり・腰痛は姿勢から」、「安心して自分らしく暮らすには」、「生活機能を高める健康で豊かな人生を歩む」をテーマに3回の講座を実施しました。毎年この講座を楽しみにしている多くの方々のために、継続実施しました。

#### ■地域活動への参画、国際交流への参加

- (1) 各種イベントへ参加し、地域に貢献しています。玉野市最大のイベント「たまの・港フェスティバル(7月)」に参加し、無料の健康増進体験ブースを出店しました。また、玉野市の中心地で行う盆踊り大会「かつからか祭り(8月)」では、約70名の学生並びに教職員が踊り連に参加しました。
- (2) 海外からの研修団受け入れ、外国との交流を行いました。本学園と教育交流協定を締結しているアメリカ ライト大学及びフィンドリー大学から訪日文化研修団を受け入れ、学生主体による交流会を実施しました。主な取り組みとしてマンツーマンでの案内、英語による学科紹介などにより、同世代の外国の学生と接することで、国際理解・協力の一端を経験しました。

## ■ ボランティア活動

地域からの要望に応えた連携協力活動を実施しています。学生ボランティアの募集情報は内容を精査し学生掲示板に掲示、あるいは直接説明を行いました。また、ボランティア活動を学習成果の一部として認定する学科もあり、積極的に推進しました。

## 教育環境

### ■ 設備の充実

保健看護学科の教育効果を上げるために教室内のプロジェクター5台を更新しました。

理学療法学科、作業療法学科では、骨格模型2台を導入し、授業や演習での教育効果を上げることが出来ました。

## 学生の受入

### ■ 学生の受入方針

学生の能力、適性、可能性を確認し、優れた人材の確保に努めるために、志望理由書などの書類審査、面接審査、口頭試問、小論文審査、筆記試験などによるさまざまな選考方法で入試を実施しました。

### ■ 入試方法等

A0入試を始め、特別入試、推薦入試、社会人入試および一般入試など多様な入学試験を実施し、多様な学生の選抜を行いました。また、岡山県以外からの入学希望者に応えるために地方会場も設け実施しました。

### ■ オープンキャンパス

オープンキャンパスを実施し、本校の魅力を伝えました。昨年度実施したオープンキャンパスの開催日数及び内容に新たな内容を加え、高校生や保護者に魅力あるイベントを実施しました。

## ■ 職業訓練生委託事業

行政が行う職業訓練事業(介護福祉士養成)の訓練生を受入れました。

## 内部質保証

### ■ 自己点検

自己研鑽、検証制度を実施し、PDCAサイクルの実施を行い、学生への教育力向上に役立てました。

また、今年度は平成27年度から平成29年度の活動についての報告書をまとめました。

### ■ 内部監査

授業観察を実施し、教育向上に努めました。専任教員を対象に授業観察を実施し、授業の方法や工夫などについて、客観的に評価するもので、校長以下副校長、学科長、事務室長が観察を行いました。また同時に、学生の授業参加状況についても検証し、より充実した授業となるよう検証を行いました。

### ■ 学外者の意見の反映

学校評価委員会を設置し、第三者からの言及を尊重し、改善を進めるために委員会規程の整備を行いました。次年度は委員会委員の人選を行う予定です。

## その他の取組等

### ■ 正課外活動の支援

保健、医療、福祉分野のアルバイトを紹介し、授業の理解や臨床実習などの実習教育に繋げる支援を行いました。

### ■ 財務基盤の強化

収入に見合う支出にするための検証を行い、無駄な支出を抑制するよう財務基盤の強化に努めました。

## 人事・組織

### ■適正な人材の確保、配置

適正な教職員を確保し適切な配置を行うため、法令で定められた人数の確保に努めました。

## 主な行事

4月4日	入学宣誓式
5月12日	宣誓式（保健看護学科）
5月19、20日	たまの港フェスティバル
5月26日	第1回オープンキャンパス
6月23日	第2回オープンキャンパス
6月28日	国際交流（外国人研修団との交流）
7月7日	岡山県専修学校スポーツ大会
7月21日	第3回オープンキャンパス
8月4日	第4回オープンキャンパス
8月25日	第5回オープンキャンパス
9月1、15日	教育進路懇談会
10月6日	公開講座①
10月13日	特別入試、社会人入試Ⅰ期他
10月20日	優勇祭（学校祭）、学校見学会
10月27日	公開講座②
11月10日	推薦入試Ⅰ期
11月17日	公開講座③
11月18日	20周年記念行事
12月8日	推薦入試Ⅱ期、社会人入試他
12月15日	入試説明会
12月21日	壮行式（理学療法学科・作業療法学科）
1月26日	一般入試Ⅰ期
1月27日	介護福祉士国家試験日
2月2日	第6回オープンキャンパス
2月15日	入学前オリエンテーション
2月17日	保健師国家試験日
2月19日	看護師国家試験日
2月23日	一般入試Ⅱ期
2月24日	理学療法学科・作業療法学科国家試験日
3月2日	非常勤講師連絡会議
3月10日	卒業証書授与式
3月16日	教育進路懇談会
3月15日	実習指導者連絡会議
3月23日	第7回オープンキャンパス
3月26日	一般入試Ⅲ期

## 学生・教職員数

### ■在籍学生数

(平成30年5月1日現在)

課程・学科名		入学定員	入学者数	収容定員	在学者数
医療専門課程	保健看護学科	40	39	160	154
	理学療法学科	40	22	160	113
	作業療法学科	40	19	160	69
	計	120	80	480	336
教育・社会福祉 専門課程	介護福祉学科	40	4	80	13
	計	40	4	80	13
<b>合 計</b>		<b>160</b>	<b>84</b>	<b>560</b>	<b>349</b>

(単位：人)

### ■卒業者数等一覧

(平成30年度)

区分	卒業者	就職希望者 A	就職者 B	就職率 B/A	進学者	退学者・ 除籍者	休学者	留年者 ※
玉野総合医療専門学校	82	82	79	96%	0	19	3	17

※ 修業年限を超えて在籍している学生数 (平成31年4月1日現在)

(単位：人)

主な就職先	岡山医療センター、心臓病センター榊原病院、岡山リハビリテーション病院 四国こどもとおとなの医療センター、福山医療センター、松江医療センター 他
-------	--

### ■教職員数

(平成30年5月1日現在)

校長	副校長	教員	教員 計		事務職員
1	2	28	31		7

(※副校長1名は教員兼任)

(単位：人)

## 財務関係

### ■事業活動収支

(単位：千円)

科目		年度	
		30年度 決算額	前年度 決算額
教育活動 収支	収入		
	学生生徒等納付金収入	360,820	419,348
	経常費等補助金	26,621	23,445
	その他収入	17,983	4,871
	計	405,423	447,664
支出	人件費	366,996	358,169
	教育研究経費	94,795	102,190
	管理経費	41,012	40,981
	その他支出	452	253
	計	503,255	501,593
教育活動収支差額		△97,831	△53,929
教 活 外	収		
	受取利息等	1	1
	支		
借入金利息等	0	0	
教育活動外収支差額		1	1
経常収支差額		△97,830	△53,928
特 別	収		
	資産売却差額等	749	1,457
	支		
資産処分差額等	972	0	
特別収支差額		△223	1,457
基本金組入前収支差額		△98,053	△52,471
基本金組入額合計		0	△2,469
当年度収支差額		△98,053	△54,940

### ■施設設備計画

(単位：千円)

事業名	金額
プロジェクター更新5台	480
骨格模型2台	630